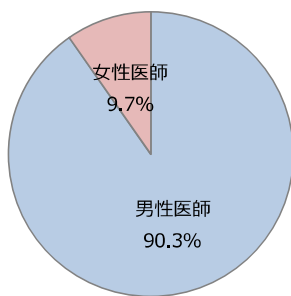


調査概要

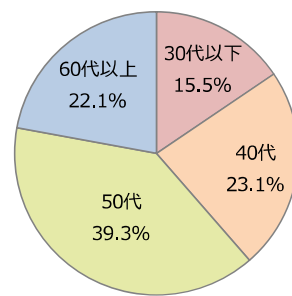
- 調査目的 : 自治体（市町村の保健所等）で働く公衆衛生医師の確保や人材育成のために公衆衛生医師およびそれに関連する意識・実態等を調査することにより、今後の方向性探索における一助とする。
- 調査対象 : 25～70歳 男女
- 調査地域 : 全国
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 2018年3月7日（水）～3月8日（木）
- 有効回答数 : 412サンプル
- 調査実施機関 : 株式会社マクロミル

回答者属性① n=412

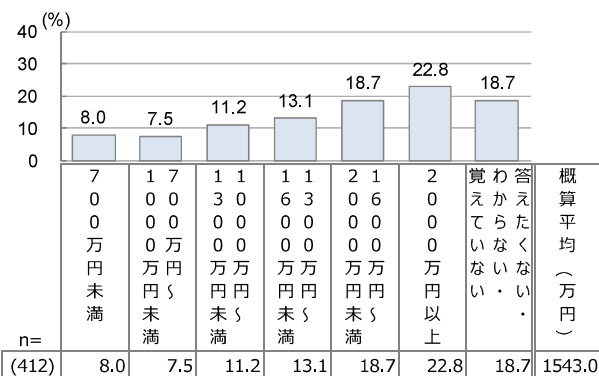
性別



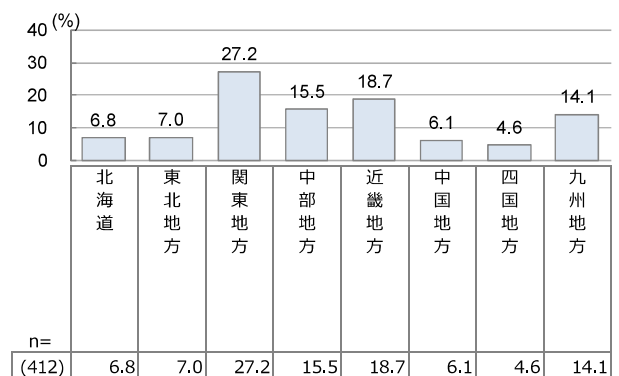
年代



年収 (Q12)

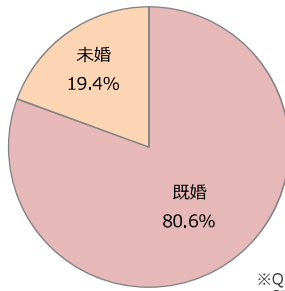


居住地域



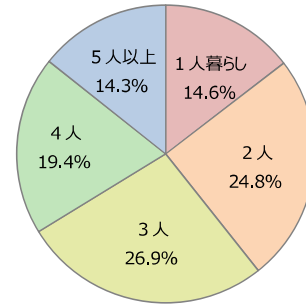
回答者属性② n=412

未婚

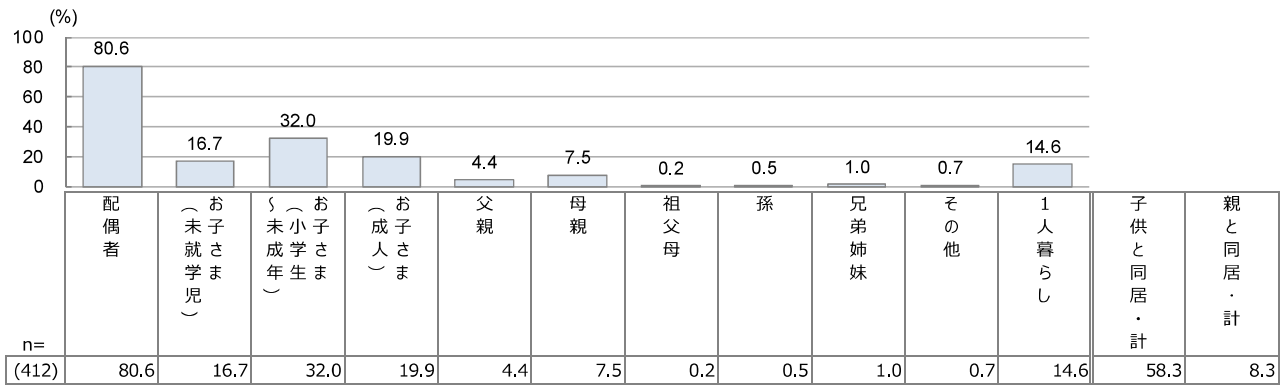


※Q2:家族構成にて「配偶者」と回答した人を「既婚」としている

同居家族人数 (Q1)

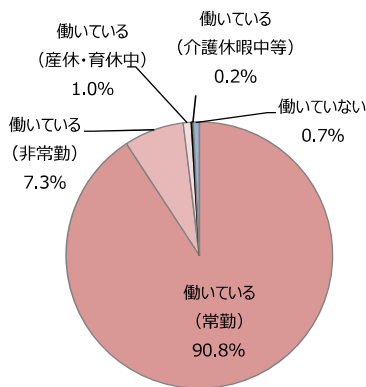


同居の家族 (Q2)



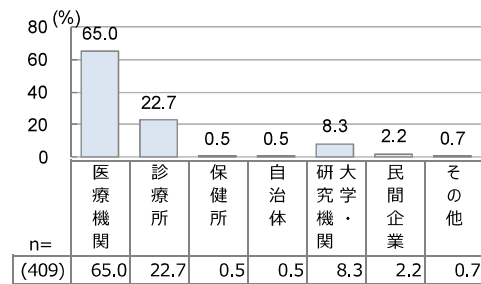
回答者属性③ n=412

医師として働いているか (Q4)



勤務先種別 (Q5)

※医師として働いている者ベース



勤務先地域 (Q6)

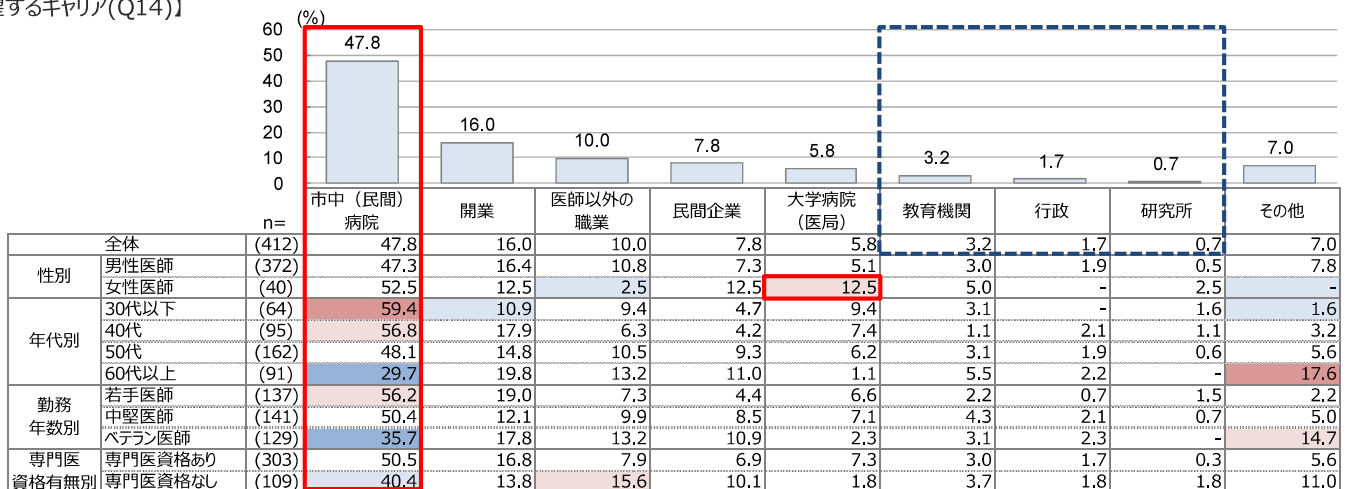
(%)	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
n=	(412)	7.0	1.5	0.7	1.9	0.5	0.7	0.7	1.0	1.0	2.7	2.7	13.3	4.9	1.2	0.5	1.9	0.2	0.2	1.7	1.7	0.7	6.3	1.5
	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	海外
n=	(412)	1.5	2.9	7.5	4.4	1.2	0.5	0.5	1.5	2.4	1.2	1.2	0.2	2.4	0.5	5.3	1.0	2.4	1.5	0.5	0.7	2.4	0.5	0.2

調査結果の要約

医師としての勤務実態・意識

- 医師資格を取得してからの年数(Q3)：平均25.0年。「30年～35年未満」が25%でボリュームゾーン。
- 医師としての勤務期間(Q7)：平均24.4年。上記、医師資格を取得してからの年数とリンクした結果となっている。
- 主たる診療科(Q8)：「内科」が111人で最も多い。以下、「外科」40人、「整形外科」37人、「精神科」30人、「小児科」29人、「循環器内科」28人、「消化器内科（胃腸内科）」27人、「麻酔科」25人の順。
- 年間収入(Q12)：概算平均1543万円。男性、高年齢層（50代がピーク）、中堅医師、専門医資格あり層で、相対的に年収が高い傾向。
- 希望するキャリア(Q14)：「市中（民間）病院」が48%と飛びぬけて高く、以下「開業」16%、「医師以外の職業」10%の順。「教育機関」「行政」「研究所」は数%と僅少。女性では「大学病院（医局）」が13%と比較的高め。

【希望するキャリア(Q14)】



※勤務年数別の区分は以下の通り

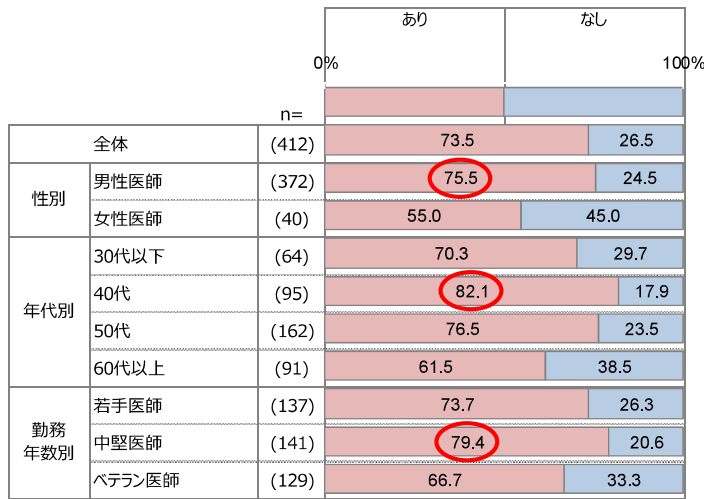
若手：20年以下 中堅：21年以上～30年以下 ベテラン：31年以上

※全体値降順でソート

専門医資格の所有状況

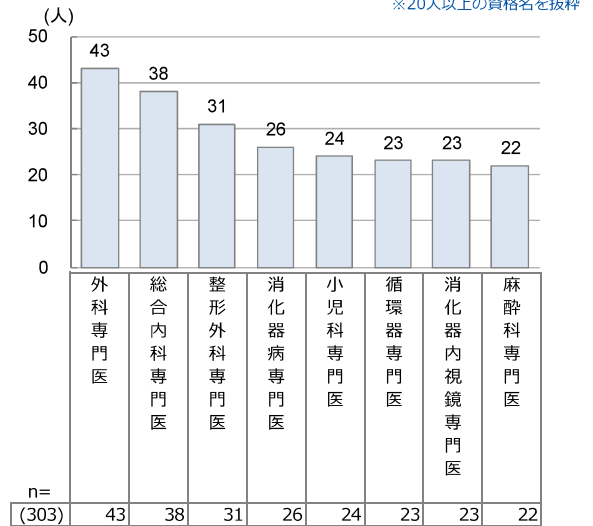
- 専門医資格を持っている人の割合は74%と全体の3/4を占める。
- 性別では男性、年代別では40代、勤務年数別では中堅医師で、専門医資格を持っている人の割合が相対的に高い。
- 所有している専門医資格名は、「外科専門医」が43人で最も多い。以下、「総合内科専門医」38人、「整形外科専門医」31人、「消化器病専門医」26人、「小児科専門医」24人、「循環器専門医」「消化器内視鏡専門医」各23人、「麻酔科専門医」22人の順。

【専門医資格の有無(Q9)】



※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下 中堅：21年以上～30年以下 ベテラン：31年以上

【所有している専門医資格名(Q10)】



※専門医有資格者ベース
※20人以上の資格名を抜粋

公衆衛生医師について

- 公衆衛生医師の勤務経験が「ある」人の割合は5%。専門医資格がない場合は、10%と比較的高めの数値となる。
- 公衆衛生医師の年収が自身の年収よりも「高いと思う」人は10%、「同程度と思う」人は33%、「安いと思う」人は57%。属性別にみると、女性や30代以下では「高いと思う」「同程度と思う」人の割合が相対的に高い。
- 公衆衛生医師領域の認知率は62%、関心がある人は24%、希望している人は5%。認知率は60代以上やベテラン医師で比較的高い。その一方、関心がある割合は女性や若手医師で比較的高い傾向がみられる。

【公衆衛生医師について(Q11,13,15)】

		(%)	収入の差のイメージ (Q13)			公衆衛生医師の認知・関心・希望 (Q15)		
		公衆衛生医師の勤務経験 (Q11)	公衆衛生医師の年間収入は自身の年間収入よりも...			公衆衛生医師の認知・関心・希望 (Q15)		
			高いと思う	同程度と思う	安いと思う	知っている	関心がある	希望している
全体	(412)	5.1	9.7	33.3	57.0	62.1	24.3	5.3
性別	男性医師	4.8	8.3	33.6	58.1	62.4	23.7	5.4
	女性医師	7.5	22.5	30.0	47.5	60.0	30.0	5.0
年代別	30代以下	3.1	18.8	43.8	37.5	60.9	26.6	6.3
	40代	7.4	2.1	29.5	68.4	57.9	27.4	6.3
	50代	3.7	8.0	30.9	61.1	61.1	22.8	5.6
	60代以上	6.6	14.3	34.1	51.6	69.2	22.0	3.3
勤務年数別	若手医師	4.4	9.5	38.0	52.6	62.0	29.9	5.8
	中堅医師	5.0	7.8	31.9	60.3	56.0	20.6	5.0
	ベテラン医師	5.4	11.6	30.2	58.1	68.2	23.3	5.4
専門医資格有無別	専門医資格あり	3.3	8.6	33.0	58.4	62.0	24.1	4.6
	専門医資格なし	10.1	12.8	33.9	53.2	62.4	24.8	7.3

※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下 中堅：21年以上～30年以下 ベテラン：31年以上

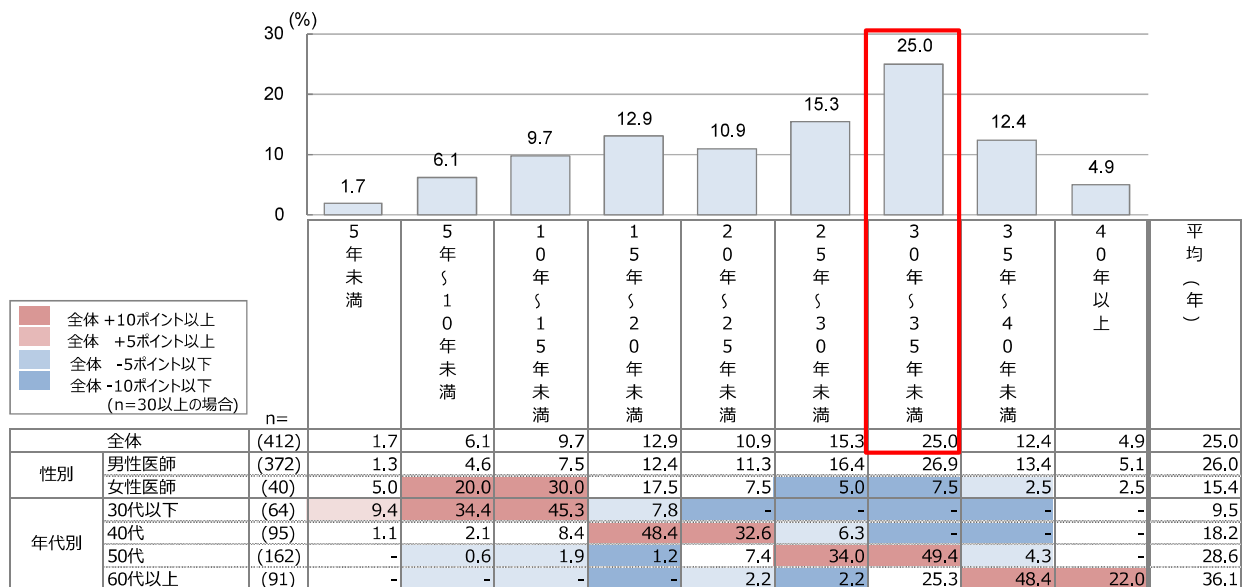
調査結果の詳細

医師資格を取得してからの年数

- 医師資格を取得してからの年数は、「30年～35年未満」が25%でボリュームゾーン。平均は25.0年。
- 性別にみると、女性より男性の方が医師資格を取得してからの年数が長い人が多く、平均で男性26.0年、女性15.4年となっている。

Q3 あなたは医師資格を取得してから何年目ですか？

FA

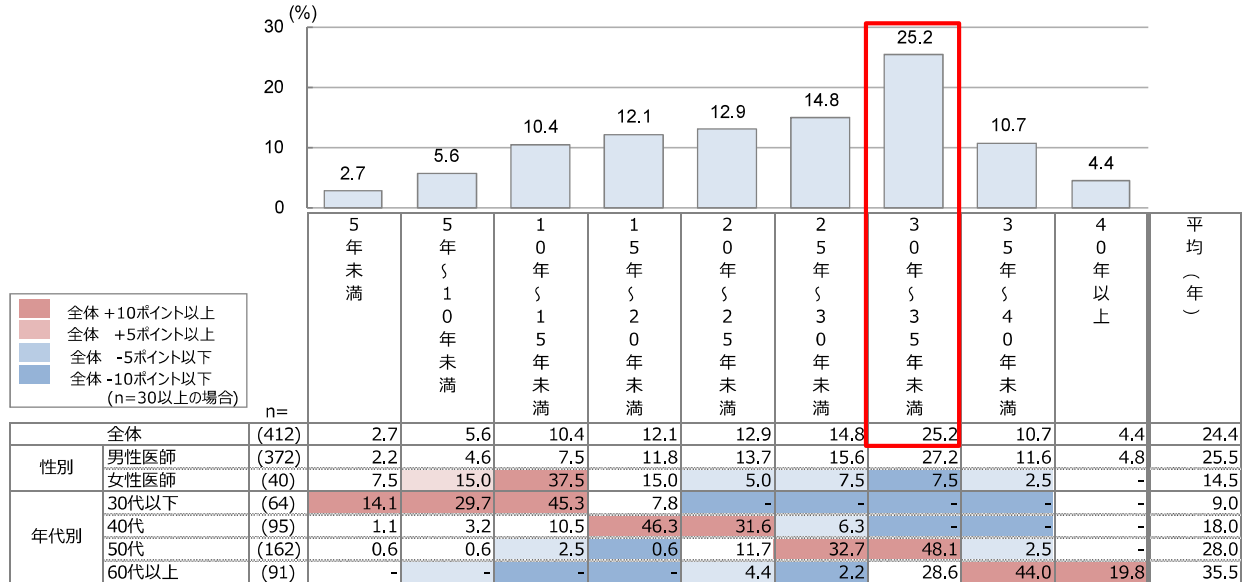


医師としての勤務期間

- 医師としての勤務期間は、「30年～35年未満」が25%でボリュームゾーン。平均は24.4年。
- 前頁の医師資格を取得してからの年数とリンクした結果となっている。

Q7 あなたが医師として働いている（いた）期間をお答えください。

FA



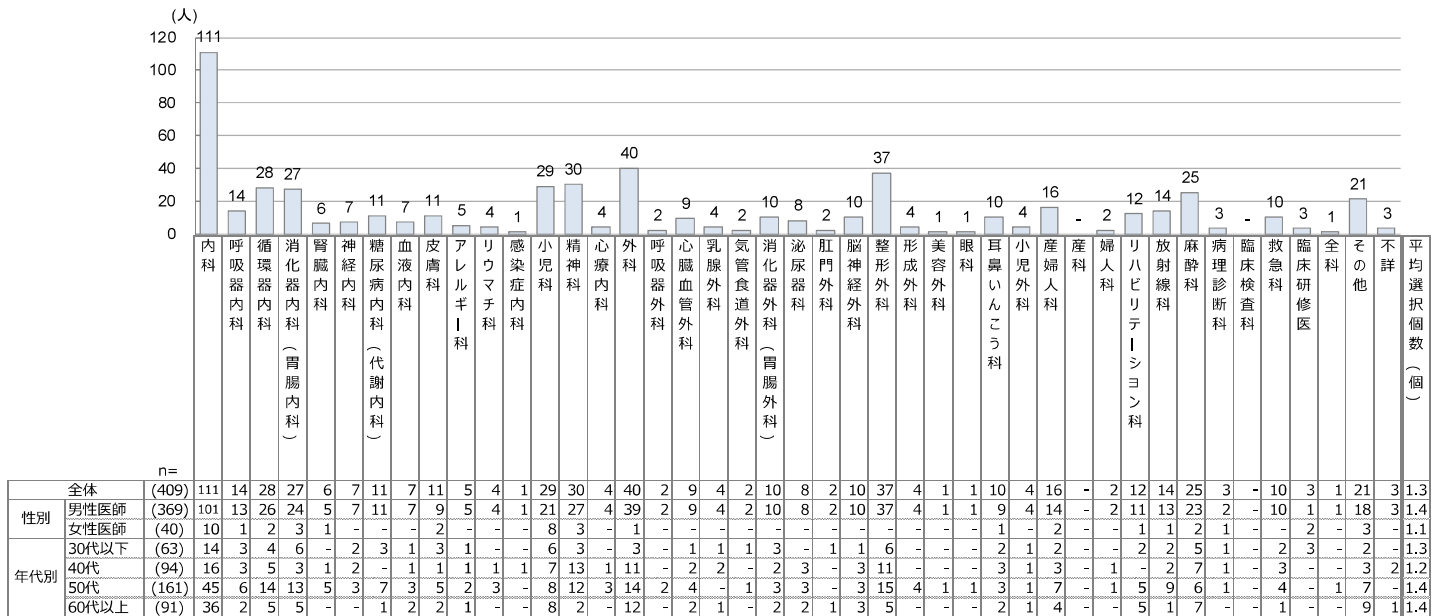
主たる診療科

- 主たる診療科は、「内科」が111人で最も多い。以下、「外科」40人、「整形外科」37人、「精神科」30人、「小児科」29人、「循環器内科」28人、「消化器内科（胃腸内科）」27人、「麻酔科」25人の順。
- 一人あたり、平均で1.3個選択している。

Q8 あなたの主たる診療科を教えてください。（いくつでも）

MA

※現在医師として働いている者ベース



※平均選択個数（個）：一人あたりが選択した選択肢の平均個数

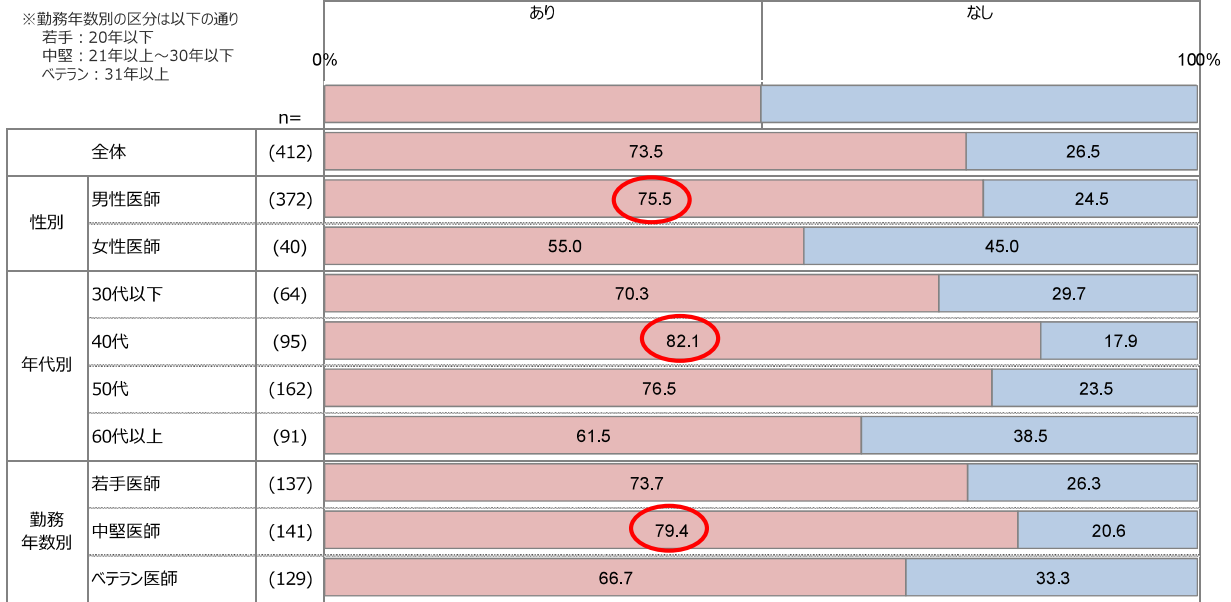
専門医資格の有無

- 専門医資格を持っている人の割合は74%。
- 性別では男性、年代別では40代、勤務年数別では中堅医師で、専門医資格を持っている人の割合が相対的に高い。

Q9 あなたは専門医資格を持っていますか？

SA

※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下
中堅：21年以上～30年以下
ベテラン：31年以上



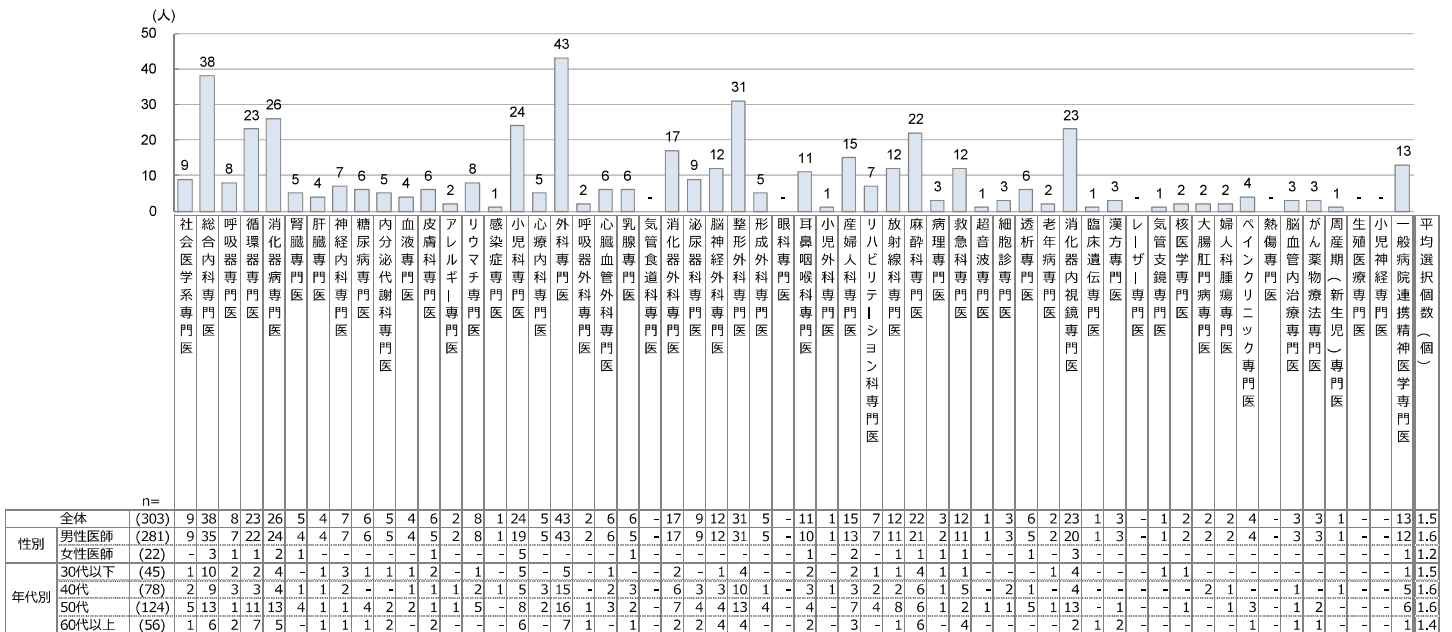
専門医資格名

- 専門医資格名は、「外科専門医」が43人で最も多い。以下、「総合内科専門医」38人、「整形外科専門医」31人、「消化器病専門医」26人、「小児科専門医」24人、「循環器専門医」「消化器内視鏡専門医」各23人、「麻酔科専門医」22人の順。
- 一人あたり、平均で1.5個選択している。

Q10 あなたがご持ちの専門医資格名を教えてください。(いくつでも)

MA

※専門医有資格者ベース



※平均選択個数(個)：一人あたりが選択した選択肢の平均個数

公衆衛生医師の勤務経験

- 公衆衛生医師の勤務経験が「ある」人の割合は5%。「ある」人の勤務経験平均年数は10.0年となっている。
- 専門医資格がない場合は、勤務経験者が10%と比較的高く、勤務経験平均年数も12.6年とやや長めとなっている。

Q11 ご自身の公衆衛生医師の勤務経験の有無について教えてください。公衆衛生医師の勤務経験がある場合はその期間を教えてください。

SA

※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下
中堅：21年以上～30年以下
ベテラン：31年以上

		ある		ない		平均勤務経験(年)
		0%	100%			
全体		(412)	5.1	94.9		10.0
性別	男性医師	(372)	4.8	95.2		10.8
	女性医師	(40)	7.5	92.5		5.0
年代別	30代以下	(64)	3.1	96.9		3.0
	40代	(95)	7.4	92.6		5.4
	50代	(162)	3.7	96.3		13.0
	60代以上	(91)	6.6	93.4		14.5
勤務年数別	若手医師	(137)	4.4	95.6		4.2
	中堅医師	(141)	5.0	95.0		9.1
	ベテラン医師	(129)	5.4	94.6		17.0
専門医資格有無別	専門医資格あり	(303)	3.3	96.7		7.0
	専門医資格なし	(109)	10.1	89.9		12.6

年間収入

- 年間収入は、「1600万円～2000万円未満」19%、「2000万円以上」23%がボリュームゾーン。概算平均で1543万円。
- 属性別に概算平均をみると、性別では男性、年代別では高年齢層（50代がピーク）、勤務年数別では中堅医師、専門医資格有無別では資格あり層で、相対的に年間収入が高い傾向がみられる。

Q12 ご自身の現在の年間収入を教えてください。

SA

※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下
中堅：21年以上～30年以下
ベテラン：31年以上

※700万円未満のウエイト値は左記のように設定（100万円未満・・・50万、100～400万円未満・・・250万、400～700万円未満・・・550万）
※概算平均（万円）：「答えない・わからない・覚えていない」を除き、選択肢の中央値から算出した概算平均値

		ウエイト値⇒							概算平均(万円)		
		700万円未満 (※)	700万円～1000万円未満 (850万)	1000万円～1300万円未満 (1150万)	1300万円～1600万円未満 (1450万)	1600万円～2000万円未満 (1800万)	2000万円以上 (2200万)	答えない・わからない・覚えていない			
全体		(412)	8.0	7.5	11.2	13.1	18.7	22.8	18.7	1543.0	
性別	男性医師	(372)	6.2	5.9	10.8	13.4	19.6	25.0	19.1	1604.8	
	女性医師	(40)	25.0		22.5		15.0	10.0	10.0	2.5	15.0
年代別	30代以下	(64)	18.8		10.9	15.6	15.6	10.9	9.4	18.8	1210.6
	40代	(95)	5.3	6.3	13.7	13.7	16.8	23.2	21.1	1576.7	
	50代	(162)	4.9	6.2	8.0	14.2	23.5	28.4	14.8	1664.5	
	60代以上	(91)	8.8	8.8	11.0	8.8	17.6	22.0	23.1	1514.3	
勤務年数別	若手医師	(137)	11.7	8.8	16.8	13.9	13.1	15.3	20.4	1372.5	
	中堅医師	(141)	3.5	5.7	7.1	14.9	29.1	24.1	15.6	1681.5	
	ベテラン医師	(129)	9.3	7.8	10.1	10.1	14.0	29.5	19.4	1564.4	
専門医資格有無別	専門医資格あり	(303)	6.3	6.9	12.2	12.5	18.8	25.1	18.2	1588.5	
	専門医資格なし	(109)	12.8	9.2	8.3	14.7	18.3	16.5	20.2	1413.2	

自身の年間収入と公衆衛生医師(常勤)の年間収入の差のイメージ

- 公衆衛生医師の年間収入が自身の年間収入よりも「高いと思う」人は10%、「同程度と思う」人は33%、「安いと思う」人は57%。
- 概ね自身の年間収入より「安いと思う」人が多く、全体では概算平均で126万円安いと思っている。年収別の1000万円未満の場合のみ、概算平均値がプラス（自身の年間収入より高いと思う）という結果であった。

Q13 ご自身の現在の年間収入と、公衆衛生医師(常勤)の年間収入の差に関するイメージについてお答えください。
公衆衛生医師の収入はご自身と同一経験年数かつ同年齢の公衆衛生医師(常勤)の年間収入と仮定してください。

SA

公衆衛生医師の年間収入は自身の年間収入よりも...

※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下
中堅：21年以上～30年以下
ベテラン：31年以上

	n	イメージ							概算平均(万円)
		300万円以上高いと思う (+300.0)	200万円以上高いと思う (+200.0)	100万円以上高いと思う (+100.0)	同程度と思う (+0.0)	100万円以上安いと思う (-100.0)	200万円以上安いと思う (-200.0)	300万円以上安いと思う (-300.0)	
全体	(412)	7.3	33.3	6.3	7.5	43.2			-126.0
性別									
男性医師	(372)	6.5	33.6	5.1	7.3	45.7			-134.7
女性医師	(40)	15.0	7.5	30.0		17.5	10.0	20.0	-45.0
年代別									
30代以下	(64)	14.1	3.1	43.8		6.3	4.7	26.6	-46.9
40代	(95)	2.1	29.5	10.5	11.6	46.3			-166.3
50代	(162)	6.8	30.9	4.3	8.0	48.8			-144.4
60代以上	(91)	8.8	4.4	34.1	5.5	4.4	41.8		-106.6
勤務年数別									
若手医師	(137)	7.3	38.0	8.8	6.6	37.2			-108.8
中堅医師	(141)	6.4	31.9	5.7	11.3	43.3			-136.9
ベテラン医師	(129)	7.8	3.1	30.2	4.7	3.1	50.4		-134.1
専門医資格有無別									
専門医資格あり	(303)	6.9	33.0	6.3	8.3	43.9			-131.7
専門医資格なし	(109)	8.3	2.8	33.9	6.4	5.5	41.3		-110.1
年収別									
700万円未満	(33)	3.0	6.1	27.3	15.2	6.1	3.0	33.0	93.9
700万円～1000万円未満	(31)	6.5	3.2	9.7	58.1		16.1	6.5	6.5
1000万円～1300万円未満	(46)	6.5		50.0		6.5	13.0	23.9	-84.8
1300万円～1600万円未満	(54)	9.3		29.6	7.4	5.6	46.3		-127.8
1600万円～2000万円未満	(77)		29.9	2.6	10.4	55.8			-189.6
2000万円以上	(94)	5.3	11.7		80.9				-229.8
答えたくない・わからない・覚えていない	(77)	2.6	48.1		7.8	11.7	28.6		-106.5

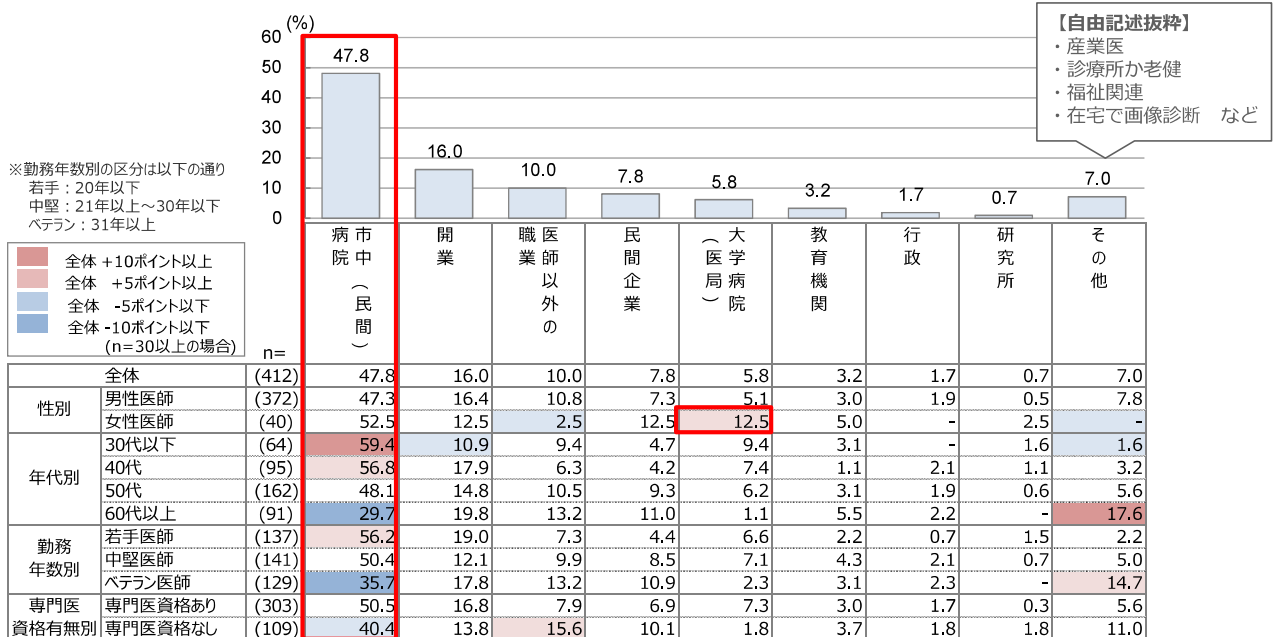
※概算平均(万円)：ウエイト値から算出した概算平均値

希望するキャリア

- 希望するキャリアは、「市中(民間)病院」が48%と飛びぬけて高く、以下「開業」16%、「医師以外の職業」10%の順。
- いずれの属性も「市中(民間)病院」が最も高い。とりわけ、若年層、若手医師などで「市中(民間)病院」を希望する割合が高い傾向。
- 女性では「大学病院(医局)」が13%と比較的高い。

Q14 あなたが将来希望するキャリアについて教えてください。

SA



※全体値降順でソート

公衆衛生医師領域への興味関心

- 公衆衛生医師領域の認知率は62%、関心がある人は24%、希望している人は5%。
- 認知率は高齢層やベテラン医師で比較的高い。その一方、関心がある割合は女性や若手医師で比較的高い傾向。

Q15 あなたにとって公衆衛生医師という領域の興味関心について教えてください。

SA

※勤務年数別の区分は以下の通り
 若手：20年以下
 中堅：21年以上～30年以下
 ベテラン：31年以上

全体 +10ポイント以上
 全体 +5ポイント以上
 全体 -5ポイント以下
 全体 -10ポイント以下
 (n=30以上の場合)

		0% 100%						※計希望している	※計関心がある	※認知計
		①公衆衛生医師に関心があり希望している	②公衆衛生医師に関心はないが希望している	③公衆衛生医師に関心はあるがキャリアとしては希望していない	④公衆衛生医師に関心もなくキャリアとしても希望していない	⑤公衆衛生医師についてあまり知らない	⑥公衆衛生医師について全く知らない・初めて聞いた			
全体	(412)	3.9	20.4	36.4		29.9	8.0	5.3	24.3	62.1
性別	男性医師 (372)	4.0	19.6	37.4		29.3	8.3	5.4	23.7	62.4
	女性医師 (40)	2.5	27.5	27.5		35.0	5.0	5.0	30.0	60.0
年代別	30代以下 (64)	4.7	25.0	29.7		34.4	4.7	6.3	26.6	60.9
	40代 (95)	5.3	22.1	29.5		37.9	4.2	6.3	27.4	57.9
	50代 (162)	4.9	17.9	37.7		28.4	10.5	5.6	22.8	61.1
	60代以上 (91)	2.2	19.8	46.2		20.9	9.9	3.3	22.0	69.2
勤務年数別	若手医師 (137)	3.6	26.3	29.9		32.8	5.1	5.8	29.9	62.0
	中堅医師 (141)	3.5	17.0	34.0		36.2	7.8	5.0	20.6	56.0
	ベテラン医師 (129)	4.7	18.6	44.2		20.2	11.6	5.4	23.3	68.2
専門医資格有無別	専門医資格あり (303)	3.6	20.5	37.0		30.7	7.3	4.6	24.1	62.0
	専門医資格なし (109)	4.6	20.2	34.9		27.5	10.1	7.3	24.8	62.4

*スコア2%未満は非表示

※希望している・計=①+② ※関心がある・計=①+③ ※認知計=①+②+③+④

コンピテンシー回答_項目グループ1-3

- 『基礎的な臨床能力』の3項目と『分析評価能力』の「法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを的確に使うことができる」では「基本レベル」、それ以外の項目では「未経験」の割合が最も高くなっている。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。

SA

- [1] 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない。わからない。
 [2] 基本レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があるが、誰かに教えた経験はない。
 [3] 自立レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があり、誰かに教えた経験がある。

		0% 100%		
		未経験	基本レベル	自立レベル
n=				
臨床基礎能力	医師が身に付けておくべき診療に関する基本的な知識と技術を前提に、個人や集団の背景や環境等を踏まえて、疾病の予防や管理、再発防止や機能低下の防止について管理指導を行うことができる	26.5	37.4	36.2
	疾病の原因と健康への影響の因果関係、および疾患や障害の発生に関するリスクを評価し、改善、管理、予防対策を講じることができる	26.9	40.3	32.8
	心身機能・身体構造の医学的・社会的評価を踏まえ、患者等の疾病や障害を管理するとともに、社会活動への参画を支援できる	28.9	44.9	26.2
分析評価能力	法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを的確に使うことができる	36.7	42.0	21.4
	統計情報を活用して標準化、時系列分析、地理的分析などを行い、健康課題を明らかにできる	45.4	39.1	15.5
	特定集団の健康水準ならびに健康決定諸条件を把握するための指標について理解し、使用することができる	45.4	37.9	16.7
	課題解決のために、定量的データ、定性的データを的確に活用し、データベースを構築することができる	46.1	38.1	15.8
	特定の課題において健康ニーズアセスメントを実施することができる	48.8	36.4	14.8
	新たな政策や事業を導入することによりもたらされる健康影響を系統的に評価することができる	55.1	31.3	13.6
	様々な研究手法の長所や限界を理解し、客観的にエビデンスを評価することができる	44.2	40.0	15.8
	健康プログラムの有効性をエビデンスに基づき正しく評価できる	50.0	38.6	11.4
課題解決能力	施策を実施し目的を達成するために必要な資源を確保することができる	46.4	38.1	15.5
	利用可能な資源を有効に活用して事業の進捗をはかり、定められた期間内に成果をあげて完了させることができる	48.3	36.9	14.8
	財務管理の手法の適用について理解し、それを示すことができる	59.7	29.1	11.2
	新たな事業に必要な予算の算定を、事業の効率性、事業効果の重要性、資源の有効活用などの点から的確に行うことができる	59.0	29.9	11.2
	経営計画の立案と評価を行い、対案の査定、事業の継続または中止の判断ができる	57.8	30.6	11.7
不確定な要素、予想外の事態、種々の問題に対し注意深く適切に対処することができる	46.6	39.3	14.1	

コンピテンシー回答_項目グループ4-7

- 『パートナーシップの構築能力』『研究推進と成果の還元能力』では「未経験」の割合が最も高い項目が多いが、『倫理的行動能力』の3項目では「基本レベル」の割合が過半数を占めている。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。

SA

- [1] 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない。わからない。
- [2] 基本レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があるが、誰かに教えた経験はない。
- [3] 自立レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があり、誰かに教えた経験がある。

項目	n	%		
		未経験	基本レベル	自立レベル
コミュニケーション能力				
口頭・文書により組織の内外と適切な潤滑な意識疎通をはかることができる	(412)	23.8	47.6	28.6
健康危機管理の一般原則と、専門職、保健所、自治体、国、メディアなどの役割を理解し、活用できる	(412)	38.3	42.0	19.7
ヘルスコミュニケーション、リスクコミュニケーションについて理解し、適切にメディアに対応できる	(412)	41.3	43.4	15.3
ソーシャルマーケティングとマスコミュニケーションの理論を理解した上で的確に応用し、人々の健康に係わるメディア戦略の立案と展開に貢献できる	(412)	54.4	34.2	11.4
国民の健康に係わる情報を社会に向けて適切に公表し、わかりやすく伝え、サービスやシステムを適切に評価し、様々な場面で意思決定に役立てることができる	(412)	49.8	38.6	11.7
構築能力				
複雑な問題に対して、他の関係機関と良好な関係を構築して取り組むことができる	(412)	37.6	44.2	18.2
公衆衛生活動を効果的に展開するために、重要な利害関係者を見出し、参画させることができる	(412)	56.3	31.6	12.1
複数機関が関与する状況下において、専門領域が異なる人々と協力して業務を行うための技術と能力がある	(412)	45.9	37.6	16.5
関係者の利害関係をふまえて地域開発の事業や活動を展開することができる	(412)	54.1	33.5	12.4
他の専門領域の協力者と連携し、公衆衛生およびその他の評価・監査事業を、計画、実施、完結できる	(412)	55.6	31.3	13.1
幅広い層の人々を対象に公衆衛生課題について指導・教育する能力がある	(412)	55.8	31.3	12.9
人材育成についての知識、技術と態度を身につけている	(412)	44.2	36.9	18.9
関係する組織の職員を指導と支援を行い、業務の進捗を管理し、建設的なフィードバックを行うことにより職員の資質向上を図ることができる	(412)	51.0	35.0	14.1
還元能力				
研究テーマに関する系統的文献レビューを行うことができる	(412)	37.1	42.5	20.4
様々な専門領域にまたがる複雑な研究の結果を解釈できる	(412)	41.5	41.0	17.5
公衆衛生活動にかかわる理論モデルとその妥当性を理解している	(412)	58.7	31.3	10.0
公衆衛生の推進および課題解決のための研究をデザインできる	(412)	65.0	26.0	9.0
患者や地域住民のニーズに即した調査研究を行うことができる	(412)	58.7	29.6	11.7
研究成果を論文として発表できる	(412)	35.0	42.0	23.1
保健医療福祉サービスの評価指標や基準を作成することができる	(412)	61.7	27.4	10.9
倫理的行動能力				
職業上の倫理規範を遵守している	(412)	20.9	54.1	25.0
秘密保持、個人情報保護に関する法的事項を理解し、法令を遵守し倫理的に適切な情報管理を行う	(412)	24.0	51.0	25.0
常に最新知識・技術の獲得を目指す努力を行い、適切な教育や研修を受ける	(412)	23.8	53.4	22.8

コンピテンシー回答【未経験】_項目グループ1-3

- 性別で見ると、女性は全般的に未経験率が高い傾向。
- 年代別、勤務年数別に見ると、60代以上、ベテラン医師で『分析評価能力』『課題解決能力』の未経験率がやや高い。

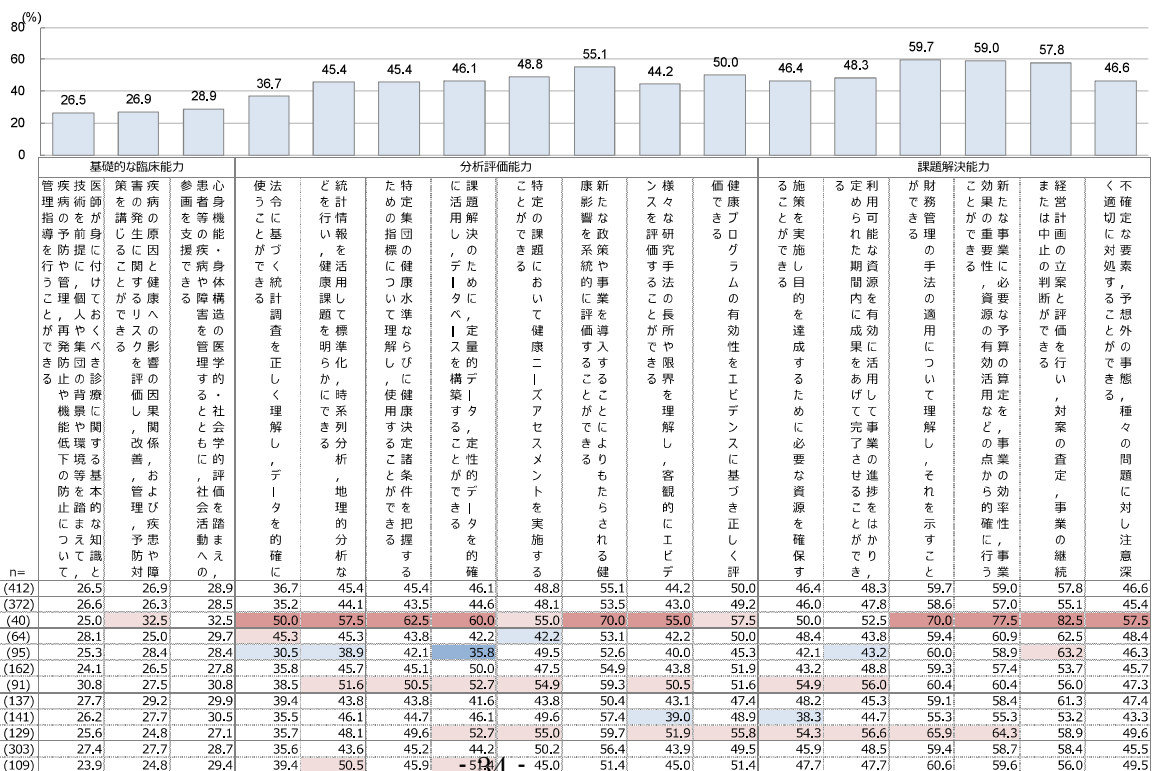
Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。

SA

[1] 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない。わからない。

※スコアは「未経験」を掲載

※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下
中堅：21年以上～30年以下
ベテラン：31年以上



全体 +10ポイント以上
全体 +5ポイント以上
全体 -5ポイント以下
全体 -10ポイント以下
(n=30以上の場合)

項目	全体	男性医師	女性医師	30代以下	40代	50代	60代以上	若手医師	中堅医師	ベテラン医師	専門医 資格有無別	専門医資格あり	専門医資格なし
基礎的な臨床能力	26.5	26.9	28.9	36.7	45.4	45.4	46.1	48.8	55.1	44.2	50.0	46.4	48.3
分析評価能力	26.5	26.9	28.9	36.7	45.4	45.4	46.1	48.8	55.1	44.2	50.0	46.4	48.3
課題解決能力	26.5	26.9	28.9	36.7	45.4	45.4	46.1	48.8	55.1	44.2	50.0	46.4	48.3

コンピテンシー回答【未経験】_項目グループ4-7

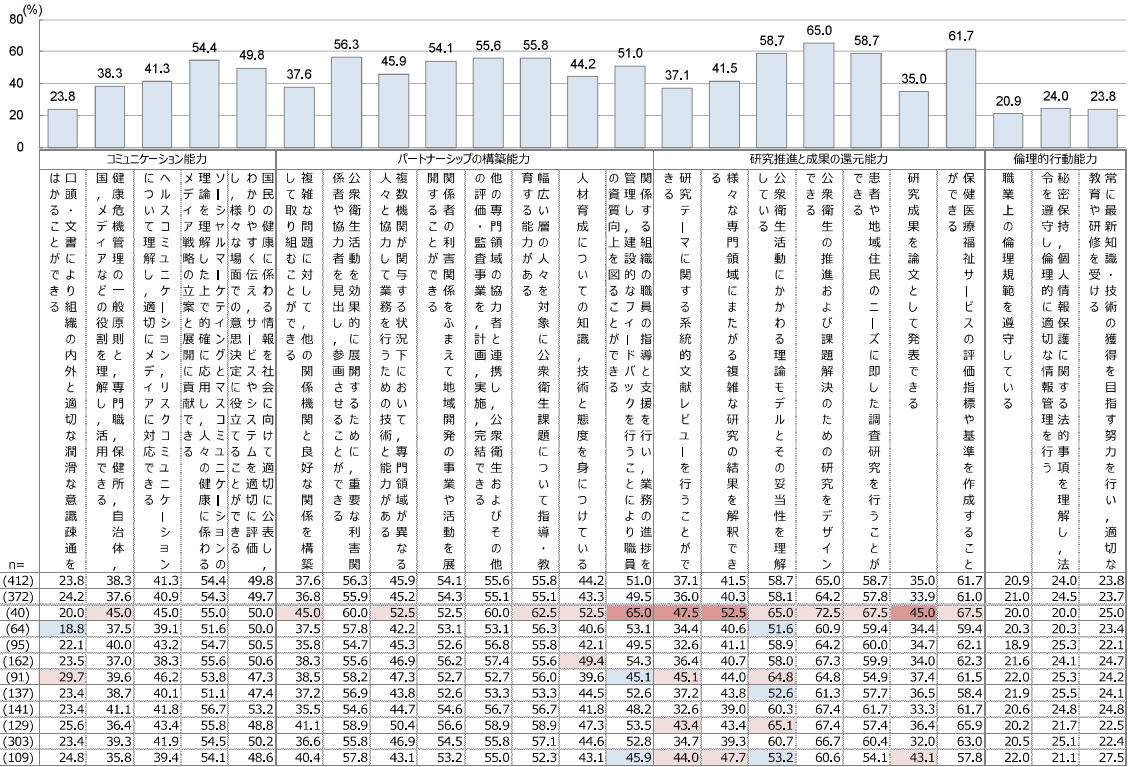
■ 前頁同様、女性の未経験率の高さが目立っている。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。
 [1] 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない。わからない。

SA

※スコアは「未経験」を掲載

※勤務年数別の区分は以下の通り
 若手：20年以下
 中堅：21年以上～30年以下
 ベテラン：31年以上



コンピテンシー回答【基本レベル】_項目グループ1-3

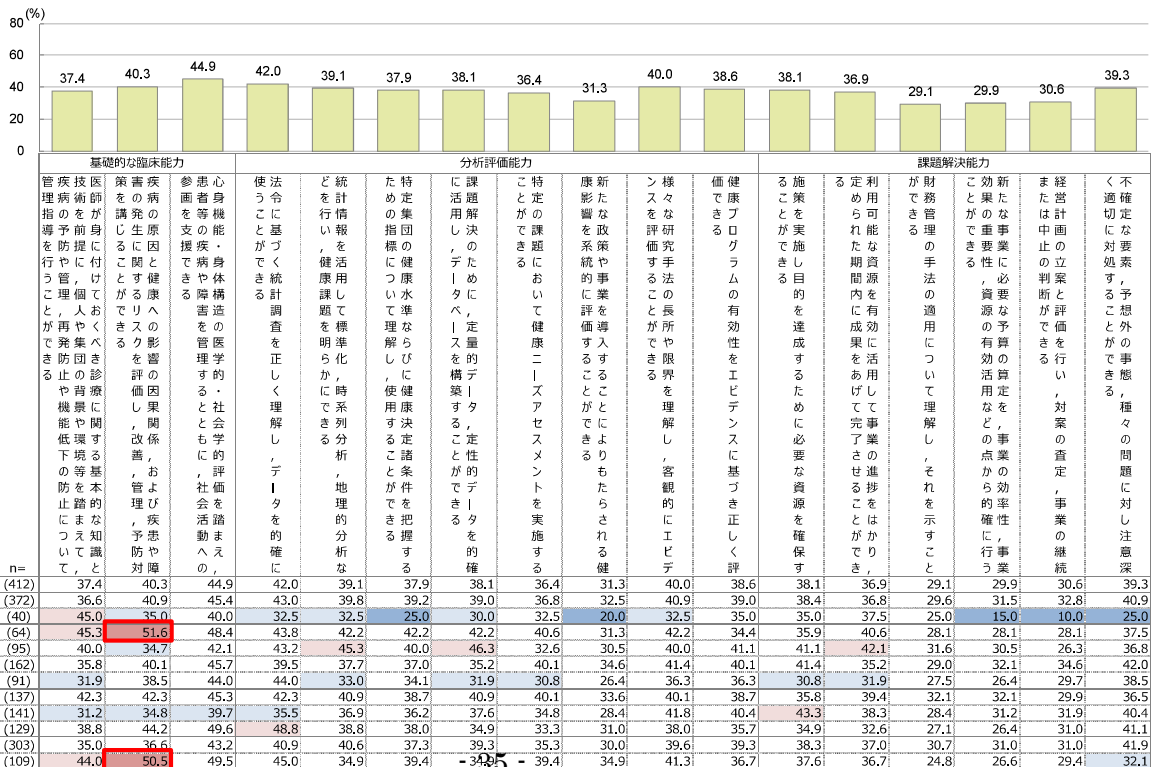
■ 未経験率が高い女性では、基本レベル率が相対的に低くなっている。
 ■ 『基礎的な臨床能力』では30代以下、専門医資格なし層で基本レベル率が高い傾向。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。
 [2] 基本レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があるが、誰かに教えた経験はない。

SA

※スコアは「基本レベル」を掲載

※勤務年数別の区分は以下の通り
 若手：20年以下
 中堅：21年以上～30年以下
 ベテラン：31年以上



コンピテンシー回答【自立レベル】_項目グループ4-7

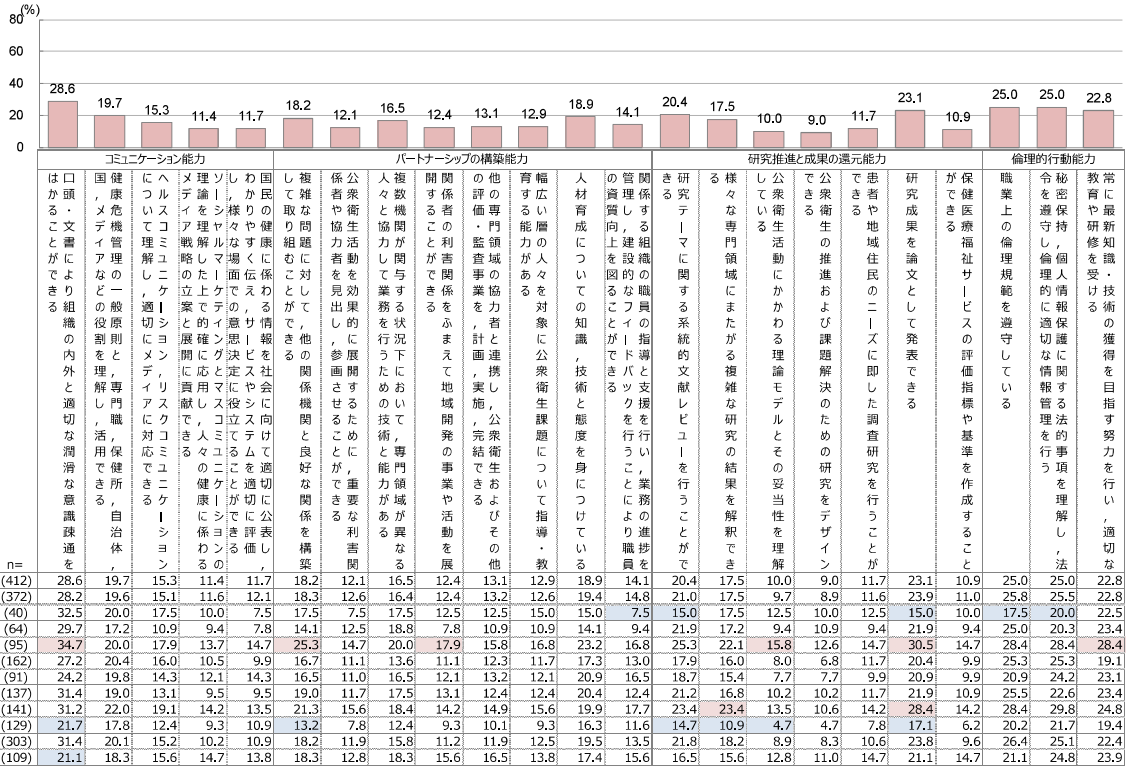
■ 40代、中堅医師で全体的にスコアがやや高い傾向。

Q16 これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。
【3】自立レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があり、誰かに教えた経験がある。

SA

※スコアは「自立レベル」を掲載

※勤務年数別の区分は以下の通り
若手：20年以下
中堅：21年以上～30年以下
ベテラン：31年以上



全体 +10ポイント以上
全体 +5ポイント以上
全体 -5ポイント以下
全体 -10ポイント以下 (n=30以上の場合)

項目	全体	若手	中堅	ベテラン
口頭・文書により組織の内外と適切な潤滑な意識疎通をはかることができる	28.6	19.7	15.3	11.4
健康危機管理の一般原則と、専門職、保健所、自治体、メディアなどの役割を理解し、活用できる	19.7	15.3	11.4	11.7
ヘルスコミュニケーションについて理解し、適切にメディアに対応できる	15.3	11.4	11.7	18.2
国民の健康に係わる情報を社会に向けて適切に公表し、様々な場面で意思決定に役立てることができる	11.4	11.7	18.2	12.1
リスクマネジメントの立案と展開に貢献できる	11.7	18.2	12.1	16.5
複雑な問題に対して、他の関係機関と良好な関係を構築して取り組むことができる	18.2	12.1	16.5	12.4
公衆衛生活動を効果的に展開するために、重要な利害関係者や協力者を見出し、参画させることができる	12.1	16.5	12.4	13.1
複数機関が関与する状況下において、専門領域が異なる人々と協力して業務を行うための技術と能力がある	16.5	12.4	13.1	12.9
関係者の利害関係をふまえて地域開発の事業や活動を展開することができる	12.4	13.1	12.9	18.9
他の専門領域の協力者と連携し、公衆衛生およびその他の評価・監査事業を、計画、実施、完結できる	13.1	12.9	18.9	14.1
幅広い層の人々を対象に公衆衛生課題について指導・教育する能力がある	12.9	18.9	14.1	20.4
人材育成についての知識、技術と態度を身につけている	18.9	14.1	20.4	17.5
関係する組織の職員の指導と支援を行い、業務の進捗を管理し、建設的なフィードバックを行うことにより職員を資質向上を図ることができる	14.1	20.4	17.5	10.0
研究テーマに関する系統的文献レビューを行うことができる	20.4	17.5	10.0	9.0
様々な専門領域にまたがる複雑な研究の結果を解釈できる	17.5	10.0	9.0	11.7
公衆衛生活動にかかわる理論モデルとその妥当性を理解している	10.0	9.0	11.7	23.1
公衆衛生の推進および課題解決のための研究をデザインできる	9.0	11.7	23.1	10.9
患者や地域住民のニーズに即した調査研究を行うことができる	11.7	23.1	10.9	25.0
保健医療福祉サービスの評価指標や基準を作成することができる	23.1	10.9	25.0	22.8
職業上の倫理規範を遵守している	10.9	25.0	22.8	25.0
秘密保持、個人情報保護に関する法的事項を理解し、法令を遵守し、倫理的に適切な情報管理を行う	25.0	22.8	25.0	22.8
常に最新知識・技術の獲得を目指す努力を行い、適切な教育や研修を受ける	22.8	25.0	22.8	22.8

付録：調査票

調査票

公衆衛生医師の人材確保・育成に関するアンケート
下記アンケートにご協力お願いいたします。

「調査についての詳細情報」の更新をお知らせしています。決して第三者に口外しないよう、ご協力お願いします。
アンケート中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さぬようご注意ください。

● 必須入力

Q1 100%
あなたご自身を含めた、同居家族の人数をお教えてください。
※家族以外の方は除いてお答えください。
※ペットは含めずにお答えください。

● 単一回答 ● 必須回答

- 1 1人暮らし（同居の家族はいない）
- 2 2人
- 3 3人
- 4 4人
- 5 5人以上



ここで改ページ

- セレクト条件： [Q1] で2-5と答えた方
- 必須入力
- 2_N：半角数字 / 最小1 / 最大8 / 整数
- 3_N：必須入力
- 3_N：半角数字 / 最小1 / 最大8 / 整数
- 3_N：必須入力
- 4_N：半角数字 / 最小1 / 最大8 / 整数
- 4_N：必須入力
- 10_FA：必須入力

Q2
同居のご家族を教えてください。（いくつでも）
※ご自身からみた続柄でお答えください。

✓ 複数回答 ● 必須回答

- 1 配偶者
- 2 お子さま（未就学児）： [(半角数字)]名
- 3 お子さま(お子さまの配偶者を含む) (小学生～未成年)： [(半角数字)]名
- 4 お子さま(お子さまの配偶者を含む) (成人)： [(半角数字)]名
- 5 父親（配偶者の父親を含む）
- 6 母親（配偶者の母親を含む）
- 7 祖父母(配偶者の祖父母を含む)
- 8 孫
- 9 兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む)
- 10 その他
[(必須入力)]



ここで改ページ

調査票

- 必須にする(全てのFA欄)
- 1_N：半角数字 / 最小1 / 最大50 / 整数

Q3
あなたは医師資格を取得してから何年目ですか？

● 必須回答

[(半角数字)] 年目



ここで改ページ

● 必須入力

Q4
あなたは現在医師として働いていますか？

● 単一回答 ● 必須回答

- 1 働いている（常勤）
- 2 働いている（非常勤）
- 3 働いている（産休・育休中【子どもに関するもの等】）
- 4 働いている（介護休暇中等【自分・親・配偶者・祖父母に関するもの等】）
- 5 働いていない



ここで改ページ

- セレクト条件： [Q4] で1-4と答えた方
- 必須入力
- 7_FA：必須入力

Q5
前問で現在医師として働いているまたは休職しているとお答えの方にお伺いいたします。
あなたが主に働いている（いた）勤務先の種別を教えてください。（ひとつだけ）

● 単一回答 ● 必須回答

- 1 医療機関
- 2 診療所
- 3 保健所
- 4 自治体
- 5 大学・研究機関
- 6 民間企業
- 7 その他
[(必須入力)]



ここで改ページ

調査票

- ①必須入力
- プルダウン選択肢:
 1. 北海道
 2. 青森県
 3. 岩手県
 4. 宮城県
 5. 秋田県
 6. 山形県
 7. 福島県
 8. 茨城県
 9. 栃木県
 10. 群馬県
 11. 埼玉県
 12. 千葉県
 13. 東京都
 14. 神奈川県
 15. 新潟県
 16. 富山県
 17. 石川県
 18. 福井県
 19. 山梨県
 20. 長野県
 21. 岐阜県
 22. 静岡県
 23. 愛知県
 24. 三重県
 25. 滋賀県
 26. 京都府
 27. 大阪府
 28. 兵庫県
 29. 奈良県
 30. 和歌山県
 31. 鳥取県
 32. 島根県
 33. 岡山県
 34. 広島県
 35. 山口県
 36. 徳島県
 37. 香川県
 38. 愛媛県
 39. 高知県
 40. 福岡県
 41. 佐賀県
 42. 長崎県
 43. 熊本県
 44. 大分県
 45. 宮崎県
 46. 鹿児島県
 47. 沖縄県
 48. 海外

Q6
あなたが働いている（いた）主な勤務先の都道府県をお答えください。

▼ 以下を選択 ▼

- ①必須にする(全てのFA欄)
- L_N: 半角数字 / 最小1 / 最大50 / 整数

Q7
あなたが医師として働いている（いた）期間をお答えください。
※月数は切り上げてお答えください。

★ 必須回答
[半角数字] 年間

.....< ここまで改ページ

- セレクト条件: [Q4] で1-4と答えた方
- ①必須入力
- ④42_FA: 必須入力

Q8
あなたの主たる診療科を教えてください。（いくつでも）

▼ 複数回答 ★ 必須回答

1	内科
2	呼吸器内科
3	循環器内科
4	消化器内科（胃腸内科）
5	腎臓内科
6	神経内科
7	糖尿病内科（代謝内科）
8	血液内科
9	皮膚科
10	アレルギー科

.....< ここまで改ページ

調査票

- | | |
|----|-------------|
| 11 | リウマチ科 |
| 12 | 感染症内科 |
| 13 | 小児科 |
| 14 | 精神科 |
| 15 | 心療内科 |
| 16 | 外科 |
| 17 | 呼吸器外科 |
| 18 | 心臓血管外科 |
| 19 | 乳腺外科 |
| 20 | 気管食道外科 |
| 21 | 消化器外科（胃腸外科） |
| 22 | 泌尿器科 |
| 23 | 肛門外科 |
| 24 | 脳神経外科 |
| 25 | 整形外科 |
| 26 | 形成外科 |
| 27 | 美容外科 |
| 28 | 眼科 |
| 29 | 耳鼻いんこう科 |

- | | |
|----|---------------|
| 30 | 小児外科 |
| 31 | 産婦人科 |
| 32 | 産科 |
| 33 | 婦人科 |
| 34 | リハビリテーション科 |
| 35 | 放射線科 |
| 36 | 麻酔科 |
| 37 | 病理診断科 |
| 38 | 臨床検査科 |
| 39 | 救急科 |
| 40 | 臨床研修医 |
| 41 | 全科 |
| 42 | その他
[必須入力] |
| 43 | 不詳 |

.....< ここまで改ページ

調査票

● 必須入力

Q9

あなたは専門医資格を持っていますか？
※専門医とは専門医機構が指定する専門医を指します。

● 単一回答 ● 必須回答

専門医資格

- ① あり
- ② なし



ここで改ページ

● セレクト条件：【Q9】で1と答えた方
● 必須入力

Q10

前問で専門医資格を持っているとお答えの方にお伺いいたします。
あなたがお持ちの専門医資格名を教えてください。（いくつでも）

✓ 複数回答 ● 必須回答

- ① 社会医学系専門医
- ② 総合内科専門医
- ③ 呼吸器専門医
- ④ 循環器専門医
- ⑤ 消化器病専門医
- ⑥ 腎臓専門医
- ⑦ 肝臓専門医
- ⑧ 神経内科専門医

⑨ 糖尿病専門医

⑩ 内分泌代謝科専門医

⑪ 血液専門医

⑫ 皮膚科専門医

⑬ アレルギー専門医

⑭ リウマチ専門医

⑮ 感染症専門医

⑯ 小児科専門医

⑰ 心療内科専門医

⑱ 外科専門医

⑲ 呼吸器外科専門医

⑳ 心臓血管外科専門医

㉑ 乳腺専門医

㉒ 気管食道科専門医

㉓ 消化器外科専門医

㉔ 泌尿器科専門医

㉕ 脳神経外科専門医

㉖ 整形外科専門医

㉗ 形成外科専門医

調査票

⑳ 眼科専門医

㉑ 耳鼻咽喉科専門医

㉒ 小児外科専門医

㉓ 産婦人科専門医

㉔ リハビリテーション科専門医

㉕ 放射線科専門医

㉖ 麻酔科専門医

㉗ 病理専門医

㉘ 救急科専門医

㉙ 超音波専門医

㉚ 細胞診専門医

㉛ 透析専門医

㉜ 老年病専門医

㉝ 消化器内視鏡専門医

㉞ 臨床遺伝専門医

㉟ 漢方専門医

㊱ レーザー専門医

㊲ 気管支鏡専門医

㊳ 核医学専門医

㊴ 大腸肛門病専門医

㊵ 婦人科腫瘍専門医

㊶ ペインクリニック専門医

㊷ 熱傷専門医

㊸ 脳血管内治療専門医

㊹ がん薬物療法専門医

㊺ 周産期(新生児)専門医

㊻ 生殖医療専門医

㊼ 小児神経専門医

㊽ 一般病院連携精神医学専門医

● 必須入力
● L_N：半角数字/最小1/最大50/整数
● Q_L_N：必須入力

Q11

※行政機関（保健所等）に勤務する公衆衛生医師（以下、「公衆衛生医師」）に関する質問です。
ご自身の公衆衛生医師の勤務経験の有無について教えてください。公衆衛生医師の勤務経験がある場合はその期間を教えてください。
※月数は切り上げてお答えください。

● 単一回答 ● 必須回答

【回答】公衆衛生医師の勤務経験が

- ① ある (半角数字) (必) 年間
- ② ない

調査票

ここを改ページ

必須入力

Q12

ご自身の現在の年間収入を教えてください。
※手取りではなく給与額面の総額（額面）をお答えください。

単一回答 必須回答

- 100万円未満
- 100万円～400万円未満
- 400万円～700万円未満
- 700万円～1000万円未満
- 1000万円～1300万円未満
- 1300万円～1600万円未満
- 1600万円～2000万円未満
- 2000万円以上
- 答えたくない・わからない・覚えていない

ここを改ページ

必須入力

Q13

ご自身の現在の年間収入と、公衆衛生医師（常勤）の年間収入の差に関するイメージについてお答えください。
公衆衛生医師の収入はご自身と同一経験年数かつ同年齢の公衆衛生医師（常勤）の年間収入と仮定してください。
※手取りではなく給与額面の総額（額面）をお答えください。

単一回答 必須回答

【回答】公衆衛生医師の年間収入はご自身の年間収入よりも

- 300万円以上高いと思う。
- 200万円以上高いと思う。
- 100万円以上高いと思う。
- 同程度（±100万円未満）と思う。
- 100万円以上安いと思う。
- 200万円以上安いと思う。
- 300万円以上安いと思う。

ここを改ページ

調査票

必須入力
9_FA: 必須入力

Q14

あなたが将来希望するキャリアについて教えてください。

単一回答 必須回答

- 教育機関
- 大学病院（医局）
- 市中（民間）病院
- 開業
- 研究所
- 行政
- 民間企業
- 医師以外の職業
- その他
(必須入力)

ここを改ページ

選択肢セレクト条件
選択肢【6】：【Q11】で2と答えた方
必須入力

Q15

あなたにとって公衆衛生医師という領域の興味関心について教えてください。
※現在公衆衛生医師として勤務している場合は今後の意向をお答えください。

単一回答 必須回答

- 公衆衛生医師に関心があり（将来）公衆衛生医師を希望している
- 公衆衛生医師に関心はないが（将来）公衆衛生医師を希望している
- 公衆衛生医師に関心はあるがキャリアとしては希望していない
- 公衆衛生医師に関心もなくキャリアとしても希望していない
- 公衆衛生医師についてあまり知らない
- 公衆衛生医師について全く知らない・初めて聞いた

ここを改ページ

調査票

- 作成所要経過 1 時間
- 必須入力(全項目)

Q16

これまでの経験を通じて、ご自身の能力について教えてください。
経験内容はご自身のこれまでの業務経験（臨床・研究等を含む）についてご回答ください。

▲ 説明文を折りたたむ

◎ 単一回答 ★ 必須回答

基礎的な臨床能力

医師が身に付けておくべき診療に関する基本的な知識と技術を前提に、個人や集団の背景や環境等を踏まえて、疾病の予防や管理、再発防止や機能低下の防止について管理指導を行うことができる。	1 / 40▼
疾病の原因と健康への影響の因果関係、および疾患や障害の発生に関するリスクを評価し、改善、管理、予防対策を講じることができる。	2 / 40▼
心身機能・身体構造の医学的・社会的評価（疾患の程度、機能障害、活動の制限、参加の制約の状態）を踏まえ、患者等の疾病や障害を管理するとともに、社会活動への参画を支援できる。	3 / 40▼

分析評価能力

法令に基づく統計調査を正しく理解し、データを的確に使うことができる。	4 / 40▼
統計情報を活用して標準化、時系列分析、地理的分析などを行い、健康課題を明らかにできる。	5 / 40▼
特定集団の健康水準ならびに健康決定諸条件を把握するための指標について理解し、使用することができる。	6 / 40▼
課題解決のために、定量的データ、定性的データを的確に活用し、データベースを構築することができる。	7 / 40▼
特定の課題において健康ニーズアセスメントを実施することができる。	8 / 40▼
新たな政策や事業を導入することによりもたらされる健康影響を系統的に評価することができる。	9 / 40▼
様々な研究手法の長所や限界を理解し、客観的にエビデンスを評価することができる。	10 / 40▼
健康プログラムの有効性をエビデンスに基づき正しく評価できる。	11 / 40▼

課題解決能力

施策を実施し目的を達成するために必要な資源を確保することができる。	12 / 40▼
利用可能な資源を有効に活用して事業の進捗をはかり、定められた期間内に成果をあげて完了させることができる。	13 / 40▼
財務管理の手法の適用について理解し、それを示すことができる。	14 / 40▼
新たな事業に必要な予算の算定を、事業の効率性、事業効果の重要性、資源の有効活用などの点から的確に行うことができる。	15 / 40▼
経営計画の立案と評価を行い、対案の査定、事業の継続または中止の判断ができる。	16 / 40▼
不確定な要素、予想外の事態、種々の問題に対し注意深く適切に対処することができる。	17 / 40▼

コミュニケーション能力

口頭・文書により組織の内外と適切な潤滑な意識疎通をはかることができる。	18 / 40▼
健康危機管理の一般原則と、専門職、保健所、自治体、国、メディアなどの役割を理解し、活用できる。	19 / 40▼
ヘルスコミュニケーション、リスクコミュニケーションについて理解し、適切にメディアに対応できる。	20 / 40▼
ソーシャルマーケティングとマスコミュニケーションの理論を理解した上で的確に応用し、人々の健康に係わるメディア戦略の立案と展開に貢献できる。	21 / 40▼
国民の健康に係わる情報を社会に向けて適切に公表し、わかりやすく伝え、サービスやシステムを適切に評価し、様々な場面での意思決定に役立つことができる。	22 / 40▼

調査票

パートナーシップの構築能力

複雑な問題に対して、他の関係機関と良好な関係を構築して取り組むことができる。	23 / 40▼
公衆衛生活動を効果的に展開するために、重要な利害関係者や協力者を見出し、参画させることができる。	24 / 40▼
複数機関が関与する状況下において、専門領域が異なる人々と協力して業務を行うための技術と能力がある。	25 / 40▼
関係者の利害関係をふまえて地域開発の事業や活動を展開することができる。	26 / 40▼
他の専門領域の協力者と連携し、公衆衛生およびその他の評価・監査事業を、計画、実施、完結できる。	27 / 40▼
幅広い層の人々を対象に公衆衛生課題について指導・教育する能力がある。	28 / 40▼
人材育成についての知識、技術と態度を身につけている。	29 / 40▼
関係する組織の職員の指導と支援を行い、業務の進捗を管理し、建設的なフィードバックを行うことにより職員の資質向上を図ることができる。	30 / 40▼

研究推進と成果の還元能力

研究テーマに関する系統的文献レビューを行うことができる。	31 / 40▼
様々な専門領域にまたがる複雑な研究の結果を解釈できる。	32 / 40▼
公衆衛生活動にかかわる理論モデルとその妥当性を理解している。	33 / 40▼
公衆衛生の推進および課題解決のための研究をデザインできる。	34 / 40▼
患者や地域住民のニーズに即した調査研究を行うことができる。	35 / 40▼
研究成果を論文として発表できる。	36 / 40▼
保健医療福祉サービスの評価指標や基準を作成することができる。	37 / 40▼

倫理的行動能力

職業上の倫理規範を遵守している。	38 / 40▼
秘密保持、個人情報保護に関する法的事項を理解し、法令を遵守し倫理的に適切な情報管理を行う。	39 / 40▼
常に最新知識・技術の獲得を目指す努力を行い、適切な教育や研修を受ける。	40 / 40▲

- 【1】 未経験：教育・研修や業務を通じた知識や経験がない。わからない。
- 【2】 基本レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があるが、誰かに教えた経験はない。
- 【3】 自立レベル：教育・研修や業務を通じた知識や経験があり、誰かに教えた経験がある。

閉じる

アンケートは以上で終わります。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

送信